

課題分析標準項目		項目 (ICF)	仮置きニーズ (項目ごとのまとめ)	仮置きニーズを確定するにあたって考えたこと		ニーズ番号	生活全般の解決 すべき課題(ニーズ)
				思考過程の記述	ニーズ確定のための具体策イメージ		
10	健康状態	健康状態に関すること (健康状態) 10	<例> 10 健康状態 本人:元気でいたい。 家族:このまま元気でいてほしい。 Dr.:内服を確実にし、リハビリを続けてほしい。	<例> 日常生活や社会生活など本人・家族の望む生活の基礎となるのは、本人が健康を維持していくことである。本人には病気に関心がないことから、周囲が気を配りながら、本人にも自分の健康について意識できるような働き掛けが必要で	<例> * 脳梗塞の再発防止、誤嚥の防止 ①体調の維持管理 ②内服を確実にする	1	<例> 1 元気に家で暮らしたい。
11	ADL						
12	IADL	心身状況に関すること (心身機能・身体構造) 13,14,16,17,18	<例> 13 認知 本人: 家族: CM: 14 コミュニケーション能力 本人: 家族:	「なぜ、このニーズであるのか」を確定する為の根拠を明らかにする。 利用者本人から尋ねられた際、どう説明すれば理解して頂けるのか、を想定しながら分かり易く記載。チェックポイントシートで検討した「介護支援専門員の意見」を参照。	何をすれば解決に向かうのか、取り組むことを検討する。 ただし、ここではサービス種別については特定しないこと。 課題整理総括表の見通し欄を参照。		
13	認知						
14	コミュニケーション能力						
15	社会との関わり	日常生活に関すること (活動) 11,12,14,16,18,19,20	<b>「仮置きニーズ」の書き方</b> チェックポイントシートの「生活全般の解決すべき課題(ニーズ)仮置き」を、左の項目ごとにまとめて転記。 <b>※この項目で、新たに考え直すのではなく転記する。</b>	<b>「仮置きニーズを確定するにあたって考えたこと」の書き方</b> チェックポイントシート、課題整理総括用を活用し、「どこに生活のしづらさがあるか」「どこに問題があるのか」「改善可能性があるのはどこ・何か」考えたきた上で、以下の項目を視点に考えた事柄を整理し、 <b>利用者が意欲的に取り組んでいけるニーズ</b> を確定しましょう。 * 現状からみた将来の予測「このままだと自立した生活の維持・継続は出来るのか」について、可能性とリスクの両側から考える。 * 「できる活動(能力)」と「している活動(実行状況)」の違いを明らかにし、「する活動(活動・生活・人生レベルの目標)」に繋げる視点を持つ。 <b>【方法】</b> 左の項目ごとにまとめた「仮置きニーズ」に関して、チェックポイントシートの「問題」(本人・家族・関係者それぞれの現状に対する認識)を検証・整理します。その際、他の項目との関連性や相互作用についても検討し、部分的な問題だけでニーズを確定させないようにしましょう。 <b>※ICFの視点:生活全体から項目同士の関連性、影響に着目。</b> 検討した結果、どの項目からニーズを確定したのか、対応する矢印で結ぶとわかりやすい。			
16	排尿・排便						
17	じょく創・皮膚の問題						
18	口腔衛生						
19	食事摂取	社会生活に関すること (参加)					
20	問題行動						
21	介護力	介護に関すること (環境因子)					
22	住環境	環境その他に関すること (環境因子・個人因子)					
23	特別な状況						

**「生活全般の解決すべき課題(ニーズ)」の書き方**

左欄で検証・整理したニーズを、優先順位の高いものから番号を付けて記入します。

**記入時に再度確認**

①項目ごとに課題を挙げるのではなく、ICFの考え方にに基づき、他の項目との関係性を踏まえているか  
 ②利用者が自覚しているものであるか  
 ③単に要望のみを課題としていないか  
 ④意欲的に取り組めるよう関わる中でデマンドがニーズに転換されているか  
 ⑤社会資源やサービス活用自体を目的としていないか  
 ⑥利用者・家族と相談して優先順位をつけているか

